

新しい年の始めに本を読んで、感想文を書いてみませんか？



第13回 新春南箕輪村図書館読書感想文コンクール

南箕輪村図書館では、児童のみなさんが優れた図書と出会う機会になることを願って、新しい年の始めに読書感想文を募集します。おおぜいのみなさんのご応募をおまちしています。

本は家にある本、学校の本、村図書館の本、どの本をえらんでもらってもいいです

◆応募できる方◆ 村内の小学生のみなさん

◆対象となる図書と読書感想文の字数◆

本を読んで、感じたことや
考えたことを書いてね！



●小学3・4学年の部● 『**椋 鳩十さんの作品**』

対象図書 『大造じいさんとガン』や『片耳の大シカ』などの作品がある喬木村出身の児童文学作家
椋鳩十さんの作品の中から、みなさんが好きな作品を1つ選んで、読んで感じたこと
を書いてください。

読書感想文の字数 600字～800字程度。(400字詰めの場合は原稿用紙1.5枚～2枚)

※裏面に作品の1部を紹介してありますので、参考にしてください。

◆原稿用紙・応募票◆ 村図書館、学校図書館にあります。※市販の原稿用紙でも可

◆応募方法◆ 作品に応募票をそえて、2月1日(日)午後5時までに村図書館へ提出してください。

※1月30日(金)までに各学校図書館への提出もできます。

◆表彰◆ 「1・2学年の部」、「3・4学年の部」、「5・6学年の部」、それぞれに最優秀賞1点を選んで
表彰します。2月下旬頃、図書館ウェブサイトでお知らせします。3月中旬頃、入賞者には表彰式で、
賞状と図書カードを贈る予定です。

◆その他◆ 応募者全員に参加賞があります。応募作品はお返しします。

～『棕鳩十』さんの紹介と作品紹介(一部)～

1905 年、長野県下伊那郡喬木村に生まれる。『大造じいさんとガン』は、国語の教科書にのっています。喬木村に、棕鳩十記念館・記念図書館があります。

作品名	どんな内容？
母ぐま子ぐま	「しんでは いけない。しんでは いけない。」はげしい痛みで気が遠くなる中、母ぐまは二ひきの子ぐまを思い、のうみそのおくの方でさけびました。
藤吉じいとイノシシ	藤吉じいさんとまごの一郎は、ふかぶかかつもった落ち葉のうえにねっころがりました。ところが、落ち葉がもくもくともりあがったのです。
大造じいさんとガン	かりゅうどと がんの、てきか味方か関係をこえた、あついまじわりをえがいたお話。
はらっぱのおはなし	ススキはらの中で、お母さんキジがたまごをあたためています。そのたまごを、おなかをすかせてからすがねらっています。
金色の足あと	がけから落ちた正太郎を助けてくれたのは、二ひきのキツネでした。
ひとりぼっちのつる	ひとりぼっちで暮らすこどものつるは、寝るのも食事もたたかうのもひとり。「おまえも、わたちのなかまに入れてやるぞ」そのしるしをうける時がはじめてきました。
月の輪グマ	30 メートルもある滝の上から、おそろしい顔をした母グマが、子グマを助けようと飛び込んだのです。
山の太郎グマ	たきぎ小屋でねていると、なまぬるいやわらかいものが、顔をぺろぺろとさわります。おどろいてとびおきると、なんと大きなクマが顔をなめまわしていました。
片耳の大シカ	どしゃぶりで、かみなりのなりひびく冬の山。シカのむれをおっていたりょうしたちはほら穴ににげこむと、そこにはシカやサルがからだをよせあっていました。
アルプスのキジ	川原のやぶで見つけたかわいらしいキジのたまご。たかひことまつおは守っていこうと約束します。ある朝、起きてみると大変な雨。キジのたまごが心配です。
片足の母スズメ	片足のスズメが、ちいさなたまごをうみました。ある日、その巣からヘビがはいだしていきました。巣をのぞくと……。

棕鳩十さんの作品はこの他にもあります。みなさんの好きな作品を選んで、感想文を書いてください。